

分 類：臨床医学 V (CC1)

授業科目名：薬剤部 臨床実習 - 薬物治療 - (Clinical Practice in Pharmacy)

対象学年：5 年次 必修

時間割コード：71643002-26

1. 主任教員

菊地 正史 (教授、薬剤部、6310)

2. 担当教員

菊地 正史 (教授、薬剤部、6310)

赤嶺由美子 (講師、薬剤部、6462)

3. 授業のねらい及び概要 (学修目標)

1. 授業の概要及びねらい

- ・薬剤部が行っている業務全般を理解すると共に、チーム医療の一員としての医師のあり方を身につける。
- ・関連するプロフェッショナリズム、倫理、医療行動科学、医療安全、医療法 (薬機法)、EBM について実践的に学ぶ。

2. 講義内容・具体的到達目標・学修目標

- 1) 処方箋交付から調剤までの流れおよび調剤過誤防止対策を説明できる。(3-5 ~ 3-7, 4-4 ~ 4-8)
- 2) 注射薬処方箋交付から個人別注射セットおよび監査時の注意点を説明できる。(3-5 ~ 3-7, 4-4 ~ 4-8)
- 3) 注射抗がん薬処方のレジメン管理におけるメリットとデメリットを説明できる。(3-5 ~ 3-7, 4-4 ~ 4-8)
- 4) 麻薬・向精神薬の管理方法を説明できる。(3-5 ~ 3-7, 4-4 ~ 4-8)
- 5) 高カロリー輸液の調製に必要な知識と技術および院内製剤の必要性について説明できる。(3-5 ~ 3-7, 4-4 ~ 4-8)
- 6) 処方箋の下書きを作成できる。(3-5 ~ 3-7)
- 7) チーム医療の一員として良好なコミュニケーションを実践できる。(2-1 ~ 2-8)
- 8) 医療チームの構成や各構成員の役割分担と連携・責任体制を説明し、チームの一員として参加できる。(2-1 ~ 2-8, 4-1 ~ 4-8, 6-1 ~ 6-2)
- 9) 関連するプロフェッショナリズム、医の倫理、医療安全、医療法 (薬機法)、EBM について実践修得する。(1-1 ~ 1-2, 3-1 ~ 3-7, 4-1 ~ 4-6, 5-1 ~ 5-5)

本科目は実務経験のある教員による授業科目です。

4. 教科書・参考書

なし

5. 成績評価の方法

CC-EPOC 入力状況、態度、レポート、出席

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

授業時間外の学習内容：到達目標や実習内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。

薬剤部 臨床実習 - 薬物治療 -

授 業 展 開	授 業 内 容
第 1 回 月曜日 [ ] 副題 担当	
第 2 回 火曜日 [ ] 副題 担当	
第 3 回 水曜日 [ ] 副題 担当	
第 4 回 木曜日 [ ] 副題 担当	
第 5 回 金曜日 [ ] 副題 担当	
第 6 回 月曜日 [ ] 副題 担当	
第 7 回 火曜日 [ ] 副題 担当	
第 8 回 水曜日 [ ] 副題 担当	
第 9 回 木曜日 [ ] 副題 担当	
第 10 回 金曜日 [ 8:30-13:45 ] 副題 薬剤部臨床実習 集合場所：薬剤部部員室 担当 菊地正史・赤嶺由美子	<p>1. 調剤業務の実践 処方オーダーリングシステム、散剤、錠剤、カプセル剤、外用剤の調剤を経験し、調剤におけるリスクマネジメントを具体的に学習する。また、処方箋の書き方を学ぶ。</p> <p>2. 薬品管理と注射薬調剤業務の実際 薬品の受け払い経路、発注システム、採用と削除、血液製剤管理簿の作成と保管、抗がん薬レジメンの運用方法および注射個人別セットの実際を学ぶ。</p> <p>3. 麻薬管理業務の実際 麻薬および向精神薬取締法のもと、麻薬・向精神薬の調剤、その記録、麻薬の廃棄方法、麻薬の事故届けがどのように行われているかを学習する。</p> <p>4. 製剤・高カロリー輸液調製業務の実際 各種滅菌法、院内製剤の種類とその意義、高カロリー輸液の調製法を実習し、体得する。</p> <p>5. チーム医療の実践 医療チームの構成員として、医師・薬剤師の役割を把握する。</p>